



Title	臨床哲学のメチエ 第22号 編集後記
Author(s)	桂ノ口, 結衣
Citation	臨床哲学のメチエ. 2017, 22
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68195
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編集後記

このメチエが出る2017年度から、2018年度は大きく変化するのだろうと、年度末になり、浜渦さんがいなくなる気配と小西さんがいらっしやる気配の両方を感じるいまは、思う。今回メチエをつくりはじめたころには、まだこの変化の予感はなく、だからこの冊子は、何かとにかくもがこうとしていた記録でもあります。

「臨床哲学とは何だろうか」を議論するよりも(すくなくともそのまえに)、「あなたが臨床哲学を考え、取り組んでいることはなんですか、調子はどうですか」と素朴に尋ねたい。メチエをひらくときにも、同様に。

編集としては、明朝体は(とくに液晶画面をとおすと)すごく目に痛いので、本文はすべて丸ゴシックにしました。

途中、今年度後期の「ひろば臨床哲学」の各人レポートを載っけるという案が出て、ひと悩みもありました。結局相談のうえ、掲載は見送りました。過去の自分のひどい失敗もこめて、学部生の皆さんにも、「公開される書き物であるとはどういうことか」を考えてもらえると嬉しいです。また、コピー剽窃などそれ以前の問題については、ほんとうにあなたはそれでいいの?と疑問です。

自問を大切にできること、あなたの問いをともに考えてくれる場があること、「できない」や「しんどい」を聴くじゅうぶんな隙間があること。それらを支える臨床哲学という運動が、もういちど新たなカタチで始まりますように。

臨床哲学のメチエ Vol.22 2017

編集：桂ノ口結衣

大阪大学大学院文学研究科 臨床哲学研究室
560-8532 大阪府豊中市待兼山町 1-5